

いっばいの家

text by Shinji Ishii
文 いしいしんじ

二〇一八年四月、福島県南相馬市小高区に一軒の書店が生まれた。店主は小説家の柳美里さん。彼女の、初期名作の名をとって、書店の名は「フルハウス」。

小高駅から歩いて三分。一見、ふつうの民家だけれど、窓をのぞけばそこには、颯爽とした木枠の棚と、ちょうどよい間隔でならべられた、本の背表紙がみえる。その場にたたずんで、しばらく見ていたくなる。ひとりひとりの思い、ことば、ところが集い、通い、溶けあい、そうしてこのように、目にみえる場として、この世にうまれた。うまれかわった。手でさわるのがもったいない。ドアの把手に指をかけ、そっと引きあける。

もうすでに、十人ほどのお客さんが来て、棚から取り出したそれぞれの一冊を、生きもののようにひらいている。向こうからどたとたと足音がひびき、店主が箱をかかえて歩いてくる。

南相馬の人間として、ひとびとに触れ、ひとびとから触れられる。住むとは、からだをその土地につなげることだ。いつしか柳さんのこのころに種がまかれ、ひとびとの声を滋養に葉を茎をのばし、そうして、まるで絵本「さらいろのたね」のように、一軒の家として結実した。それが「フルハウス」。本がいっぱい、ひとが、猫がいっぱい。声と、目にみえない光でいっぱいの家。

ここには、いいかげんに扱われた本は一冊もない。すべて柳さんが目を通し選んだ書籍ばかり。有名な本、きいたこともない本、すべての本のタイトルが、ひとしなみに流れ、棚でうねり、店じゅうで唱和している。

イベントスペースに机を置き、「その場小説」を書いた。ひとりの少女が自分の家を見つけると、少女が夜ごとの夢で見るさまざまな食べものが、家の天井からふとんのまわりに降ってくる。そのうち少女は家に羽根が生えて飛んでいく夢をみる。羽ばたきの音が家の内外に響き、そうして、家と少女は「あたらしいふるさと」に「帰ってくる」。タイトルは「フルハウス」。お客さんから「少女の名前をつけるとしたら」ときかれ「ユウちゃんかな」とこたえた。うしろで書いていた柳さんも「夢

てくる。

「あ、靴は脱がんとあがったらええの？」と問抜けなことをきいてしまう。

「あー、いしいさん、ようこそー！」と、柳美里さん。じつは、けっこ昔からの知り合い。僕がまだ東京に住んで小説なんて書いていなかったころ。アラキーさん、町田康夫妻、ダヴィンチの長蘭さん、柳さんと僕で、新宿で焼きそばを食べたり。一時間の対談のはずが、気がつけば四時間をこえていたり。

今日は、フルハウス開店記念イベント。柳さんの友人知人が毎週土曜、小高にやってくる朗読、トークライブをおこなう。僕はお客さんの前で即興で書く「その場小説」のためにやってきた。いまは午後一時。開演まであと一時間半。

をみることもあったら誰よりもまくやれるってフレーズがあったでしょ。わたしもそうなの」と笑った。

司会のかたが「いしいさんと柳さんは二十五年來のおつきあい」といわれ、少し驚いた。最初に原稿を読む編集者が誰かで、書く小説が変わってくるとか、小説の書き出しは無理につくるのでなく「待つ」とか、いろんな話がつぎつぎに転がり出た。

「いしいさんといっしょに歩いた東京の町をよくおぼえてる」と、柳さんはいった。「渋谷？新宿？なんか、揺れてる感じとか、光とか、ふたりで喋ってたことより、あのときの町の

「こっちこっち、あがって！」と、柳さん。

建物横の、もうひとつの入り口に誘ってくれる。この場所は、柳さん一家の自宅、仕事場でもある。かまちをあがると夏向きに毛をカットされた猫たちが「なにごとだ、なんだあんたは」と何匹も寄ってくる。ペットと飼い主というより柳さんのきょうだいのようなのだ。

柳さん一家が南相馬に越したのは二〇一五年の春。震災直後、被災地に通いつめ、臨時災害放送局でレギュラー番組をもつことになった。出演料ゼロ、交通費は自分持ち。そんな事情をこえて、当時鎌倉に住んでいた柳さんは、このころに現地に身を置かなければ、なにもわからない、ときっと切実に感じた。ひとのこのころに触れるためには、自分のころをひらかなければならない。だから柳さんは、一家で南相馬に移住した。当時の柳さんにとっては、すべてが必然としてつながっていったのではないだろうか。

心配が、すごく残ってるの」

「あたらしいふるさと」を見つけた柳さんの顔はおだやかに輝いていた。

「いい本屋さんの棚って、本の並びにリズムがあるってよくいうでしょう」と、僕はいった。「でも、フルハウスの棚は、それ以上ですね。僕は、歩いているだけで、メロディを感じた。本がうたってる」そういうと柳さんは、子どもを褒められた母親の顔になった。



福島県南相馬市

面積：398.58km²
総人口：54,708人(推計人口2018年4月1日)
人口密度：137人/km²
市制施行：2006年
地域の祭：相馬野馬追(7月)

Profile

1966年大阪生まれ。京都在住。著書に小説「ぶらんこ乗り」「麦ふみクーツエ」「ポーの話」「みずうみ」「四とそれ以上の国」など、エッセイ「人生を救え!」(町田康共著)「熊にみえて熊じゃない!」「選い足の話」、絵本に「赤ずきん」(ほしよりこ絵)など多数。

